

幼児教育と唱歌

青 木 存 義

今更事新しく申すまでもないことですが、幼児の心は全く白紙です。従つて一箇の人としての總ては、これから新に建設されねばなりません。ところが彼等には過去がないと同時に、經驗といふものを一切持つてゐないから、其の明鏡の如く曇のない心に映するあらゆるものを、總べて模倣し習得して、其所に新なる人格建設の材料を得て行く。ところが經驗を持たないと同時に、判断の力を伴はないから、其の模倣や習得は、全く取捨の餘地がない。彼等は善悪清濁共に見るところを直に移して、自己のものとします。こゝに於て、其の心に影を寫し、種を植付けて行く幼児發育は、非常に重大なものであると同時に、非常に大いなる意義を持つて來ます。

此の重大な幼児教育のいろ／＼の方法手段の中で、私は音楽殊にうたひもの等に、かなり大きい價値を認めるのです。

幼児の日常生活を見ますと、彼等の一日の仕事は、

食ふ事を除いては、殆んど遊ぶことです。生存の顧慮もなく、生活上の責任もない幼児としては、これは當然のことで、彼等の遊ぶことは、即ち我々大人の種々の仕事と、何の差もありません。我々が日々の仕事にそれ／＼の意義があるやうに、幼児の遊ぶことにも、皆それ／＼の意義があるのです。彼等は此の遊ぶことの中に、新なる人格を建設して行きつゝあるのです。従つて彼等には、此の遊ぶことが絶えずる要求です。されば、幼児教育とは、つまり此の遊ぶことの方法を善導することに出發する、否それが總てといつても過言ではないと思ひます。そこで我等は幼児教育の第一義として、最も高尚にして趣味ある遊戯の手段を以て、一方には彼等の慾求を満足せしめ、一方には新なる人格構成の要素を與へて行かなければなりません。此の手段方法の最も適切な一として、私は音楽殊に唱歌を擧げるのです。

一體幼児は、其の本來に於て、極めて快活です。

従つて彼等は、歌ひ踊ることに最も興味を感じます。

「小鳥の如くうたふ」といふのは、全く幼い子供を形容した適切な言葉です。此の普遍的な要求に對して、最も當を得た遊戯手段——音楽——を幼児教育の方法として採用しないことは、全く甚しい誤です。其の點から見て、私は、家庭に於ても學校——幼稚園——に於ても、今よりもつと／＼音楽を利用してほしい。しかし家庭に於ける音楽も、今日のやうな琴三味線の日本音楽では、到底此の目的に副ふ譯には行きません。琴三味線の音楽は全く個人本位の音楽です。御母様が一人で歌つて三味線や琴を奏いていらつしやるのでは、子供には何の交渉もなく、又何の理解も起りません。お父様の謠は如何にも年寄に面白くとも、子供に何の影響を與へませう。それよりは、お母様のピアノにつれて、お父様がうたひ、子供が踊るところに、始めて家庭の音楽は生きて來るのです。又學校にしても、今までのやうに、唱歌はさながらお景物のやうに扱はれて、全く孤立してゐるのでは、意義が甚だ少い。もつと他の學科とも交渉をつけて、多くの學科がこれによつて助けられて行く、そこまで進みたい。歐米の入門などを見ま

すと、本の中に樂譜が澤山出してあつて、アクセントの訂正、單語の記憶、文意の徹底(散文を韻文に直して歌はせる等の方法で)等に盛に利用してゐる。學校音楽はそこまで行かなければいけない。

では此の幼兒のうたひものといふものが、どんな風に分類されるか、そしてそれがどう進んで行くべきか、其の點を考へて見ませう。

幼兒のうたひものは、今日までの經路から考へますと、當然二つに分たれます。一は教育的のもの、即ち唱歌、他は藝術的のもの、即ち童謠。

しかし唱歌にせよ童謠にせよ、其の對手とするものが同じ幼兒である以上は、其所に共通の基本的要求がある譯です。

それは、うたひものを歌詞と歌曲とに分けてみると、歌詞の内容は、子供の心で子供の天地を子供らしく觀察したものでなければならず、其の表現は、子供の理解し得る言葉で、子供の理解し得る發表形式をとらなければなりません。又歌曲では、形式、程度、音域、聲區、共に子供に基礎を置かなければなりません。如何に面白い歌でも、如何に高尚な曲でも、彼等の理解し得るもので、且たやすく歌ひ得

るものでなければ、何になりませう。自ら味ひ得共鳴し得て、然る後に始めて音楽に對する目は開け、興味は湧き、満足は生じ、影響は起るのです。これは何人も否定し得ぬ事です。

然らば、從來の學校唱歌は如何。いふまでもなく、相當に此の點に注意されてゐた事は勿論ですが、實際に於ては、まだ徹底してゐないといつて誤ないと思ひます。例へば歌詞について考へて見ましても、其の趣味は多く大人の、子供本位にはなつてゐない。これは眞に兒童といふものを理解しなかつた結果で、口には子供を云くしてゐても、實は大人が子供の聲色を使つてゐるに過ぎないのです。其の早い例は、兒童生活を歌つてゐるのを見ると、よくわかる。遠足の歌、運動會の歌、遊戯の歌、そんな種類のものは、どうしても子供自身の抑へ難い喜ばしい感情を、内から歌はなければならぬのに、これまで多くのものは、遠足の有様、遊戯の様子といふやうに、外から見た歌が多いのは、不知不識の間に、眞に子供の世界、子供の心を知らずに歌つた事を、自ら語つてゐるものです。此の缺點は、獨り歌詞の内容のみに限りません。其の表現の形式も用

語も、亦歌曲の選擇も、皆似たり寄つたりです。これまでの唱歌に多く見られるやうな、西洋の曲を其の儘とつたものや、又は焼直しなども、一方には音楽の力の低い爲でもありませうが、随分心細い仕打です。國情を異にすると同時に、子供の心理も趣味も違ふのですから、眞に日本の子供のうたふ曲を作らうとするならば、もつと工風が其所にあるべき筈です。

然らば童謡の方はどうか、これは近頃非常な勢で流行して來たもので、大層喜ばしい傾向ではありませんが、其の一つ／＼を見ると、やつぱり心細い。唱歌の方は、とにかく教育的立場にある丈に、前述のやうに相當の考慮が拂はれてゐますが、童謡に到つては、所謂文士といふ人々の手に、自由に任せられてゐた爲に、可なりに放縱になつてゐる。歌曲の方は別として、其の歌詞を見て行くと、どうしてこれが子供の歌ふものなのかと、驚かれるやうなものが澤山ある。其の内容が、思切つて大人趣味に偏して、努力の後の理解によつて漸く味はれる複雑な高尚なものも少くない。殊に其の發表方法に到つては、態と方言や訛語や片言のやうな妙な言葉を挿入し、特殊

な言表しを執つてゐるものゝ多いのに驚かれる。成程、言葉の多くを知らない子供自身の發表法としては、片言も方言も訛語も大目に見てよいでせう。いや或時は、さうでなければ切實な發表が出来ないかも知れませんが、既に正しい言表しを知つてゐる大人が歌ふのに、何を苦しんでそんな變則な方法を執るのでせう。對手の子供を忘れて奇を好むもの、自らの趣味に阿るものといはれても仕方があるまいと思ひます。或は此の點を辯解して、そんな言表しの内容の情調をよく表すからといふかも知れませんが、普通の正しい言葉で發表されぬやうな内容ならば、既に其の點に於て童謡たる資格のないものといつてよいと思ひます。私からいへば、尠くとも兒童の何物かを養つて行く爲ならば、一面に、兒童の言葉の養ひをも心がけて行くことが、幼者に對する當然の務だと信じます。

去つて歌曲を見ますと、これも亦歌詞に劣らない難解好奇のものが少くないやうです。私は其の方には門外漢ですから、敢て深くは申しませんが、音域や形式などの點には、可なり頭を傾けさせるものがあるやうではありませんが、殊に伴奏に到つては、

到底未熟なものゝ手に合はないものが多い。子供のうたひもの、殊に一般を目的とする童謡が、しかく専門的手腕の人を俟たねば味れぬやうでは、對手の幼児であるなしは別としても、全く目ざす所がわからないやうな氣がします。要するに今日の童謡は、やはり童謡の名を借りた大人の遊戯で、彼の美術家が、玩具などを作つて楽しむのと、何の差もないものです。我々は今日の童謡の流行を喜ぶと同時に、もつとくく改良して、其の遠い完成を氣永に待たねばなりません。

随分話も長くなりました。之を要するに、子供殊に幼児の教育どうたひものとは、どうしても離すべからざるものです。しかし我々は今日の唱歌や童謡では、到底満足を得られません。内容に於ても形式に於ても、まだく幾多の研究を要します。そして其の研究の根本は、もつとよく子供を研究して、彼等の心理や世界を知るこいふ事にあります。我々は今日の音楽普及の潮流に掉して、更に進んだ兒童の樂天境を開拓するに努めたいと思ひます。